

新青丸研究航海報告

- * 航海番号 新青丸 KS-20-17 次研究航海
- * 航海名称 (和文) 福島周辺の海底及び海底境界層における放射性核種の動態と生物利用性
(英文) Dynamics and bioavailability of anthropogenic radionuclides in the benthic environment off Fukushima
- * 観測海域 (和文) 常磐沖
(英文) Off Joban
- * 航海期間 令和2年10月19日(月)～令和2年10月29日(木)
- * 出港日時・場所 10月19日14時・石巻港
- * 入港日時・場所 10月29日10時・横須賀港
- * 寄港期間・場所 なし
- * 研究課題 福島周辺の海底および海底境界層における放射性核種の動態と生物利用性(震災対応)
- * 主席研究員(氏名・所属・職名・e-mailアドレス◎は@)
乙坂 重嘉・東京大学大気海洋研究所・准教授・otosaka◎g.ecc.u-tokyo.ac.jp
- * 研究内容, 主調査者(e-mailアドレス), 観測項目
 1. 沿岸域における溶存態放射性核種の供給フラックスの観測
乙坂 重嘉(otosaka◎g.ecc.u-tokyo.ac.jp): 海底堆積物及び懸濁粒子中の放射性核種分布
青野 辰雄(aono.tatsuo◎qst.go.jp): 海水中の溶存放射性セシウム分布
Ken O. Buesseler(kbuesseler◎whoi.edu): 海水中の溶存放射性核種の経時変化
 2. 沿岸域における懸濁態放射性核種の輸送経路の把握
高田 兵衛(h.takata◎ier.fukushima-u.ac.jp): 懸濁態放射性核種分析
梶山 秀樹(kaeriyama◎affrc.go.jp): 懸濁粒子動態特性解析
御園生 敏治(misono.toshiharu◎jaea.go.jp): 海底堆積物特性解析
 3. 粒子態放射性セシウムの詳細分析

三浦 輝 (hi-miura@criepi.denken.or.jp) : 高線量粒子の分布特性

4. 福島第一原発施設近傍における放射性核種の生物利用性の把握

西川 淳 (jun_nishikawa@tokai-u.jp) : プランクトン、マイクロネクトン、及び魚類等ネクトン中の放射性核種濃度分布

* 乗船研究者氏名・所属・職名

乙坂 重嘉・日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター・研究主幹

戸田 亮二・東京大学大気海洋研究所・技術職員

侯 蘊軒・東京大学新領域創成科学研究科・大学院生

西川 淳・東海大学海洋学部・教授

剣持 瑛行・東海大学大学院海洋学研究科・大学院生

石倉 明依・東海大学大学院海洋学研究科・大学院生

樋口 萩香・東海大学大学院海洋学研究科・学部学生

青野 辰雄・量子科学技術研究開発機構・チームリーダー

三浦 輝・電力中央研究所 環境科学研究所・研究員

帰山 秀樹・水産研究・教育機構・グループ長

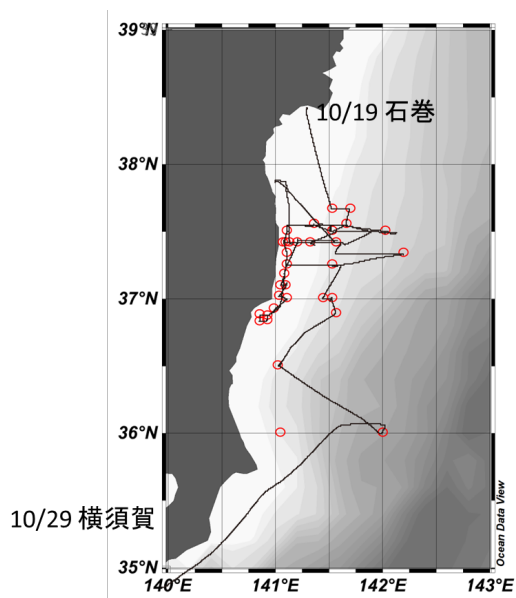
中西 貴宏・日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター・研究主幹

御園生 敏治・日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター・研究員

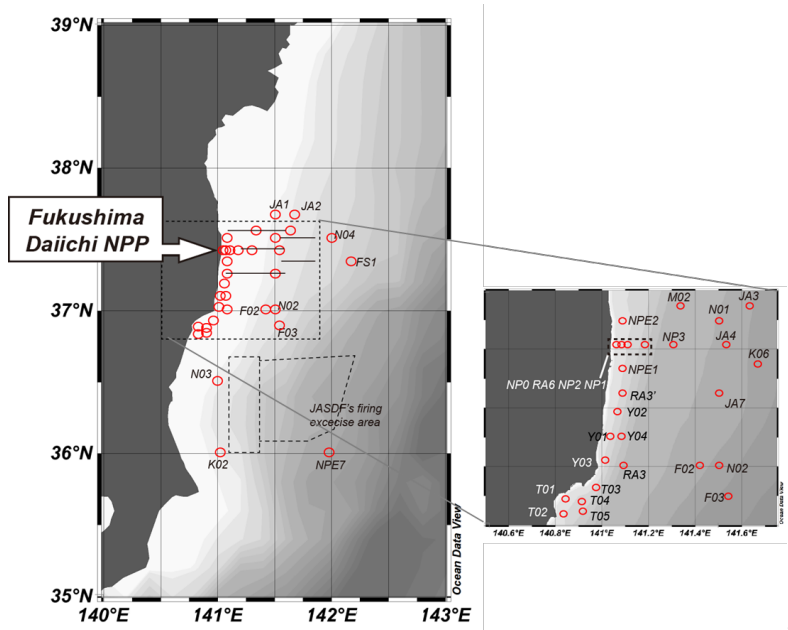
高田 兵衛・福島大学・准教授

横川 真一郎・マリンワークジャパン・観測技術員

* 航跡・測点図



航跡図



観測点図